

4-(1) 県産魚出荷技術開発試験

太田 武行

目的

カニの漁獲量日本一の鳥取県として、蟹取県にふさわしい品質のズワイガニの提供を可能とする活魚保管技術の開発（カニ保管マニュアルの策定）を行う。また、沿岸漁業の主力魚種であるイカ類に対して、鳥取墨なし白イカ『白輝姫』に続く、特徴あるイカ類の提供が可能となる墨対策尾世簿活メ処理技術の開発を行う。

方法

- ① 松葉がに（脱皮後1年以上経過した雄のズワイガニ）の温度耐性を把握するため、水温2℃ずつ変化させた水槽で5日間無給餌飼育を行い、生残状況等を比較した。また、低塩分耐性を把握するため、0.2%ずつ変化させ塩分調整した水槽で5日間無給餌飼育を行い、生残状況等を比較した。
- ② 上記①の飼育試験を若松葉がに（脱皮6カ月以内の雄のズワイガニ）を用いて実施し、生残状況等を比較した。
- ③ 仲買業者、漁業者から要望のあったコウイカの墨対策として、簡易墨止め器を開発し、試験出荷を行った。
- ④ 活締め処理、墨袋除去の効果把握を行うため、平成30年7月18、19日に釣獲したケンサキイカ（平均外套背長224mm±13mm、重量202g±27g）について、遊離アミノ酸分析を行った。遊離アミノ酸分析は、試料に10%および5%の過塩素酸を加えて除タンパクして得られた抽出液を水酸化リチウムでpH2.2に調整し、全自動アミノ酸分析機（日本電子（株）社製 JLC-500/V2）によって測定した。

結果

① ズワイガニの飼育試験

松葉がにの温度、低塩分に対する耐性に関する知見が得られた。また、若松葉がにについても、低塩分および高水温の耐性に関する基礎的な知見が得られた。更なるデータの蓄積を行い、好適環境の把握を行う必要がある。

② コウイカ簡易墨止め器

水産試験場で、墨止め器を試作し、漁業者に実際に使用してもらい、形状や仕様について改良を行った結果、簡易墨止め器が開発できた。

墨止め処理したコウイカは、2日後も墨漏れが見られず、試験販売した結果では、通常のものに比べ1割から2割の付加価値向上効果が見られた。

また、国立米子工業高等専門学校に委託し、上記と別方式の墨止め器を開発した。この墨止め器についても2日後の経過観察で墨漏れは見られなかった。次年度に作業性の確認等を行い、どちらかの方式で技術普及に努めたい。

③ ケンサキイカ遊離アミノ酸分析

神経締めと墨抜き処理を行った個体（神経メ）、墨抜き処理のみを行った個体（墨抜き）、何も処理を施さない個体（無処理）で、うまみ成分であるグリシンとアラニンが個体ごとに追跡した。その結果、同様な処理を行ったケンサキイカでも、経過日数によるアミノ酸量の推移に同様な傾向は見られず、また、処理による差も認められなかった（図1, 2）。

個体サイズをなるべくそろえ、試験を行ったが、処理方法の区分に比べ個体による差が大きい結果となった。

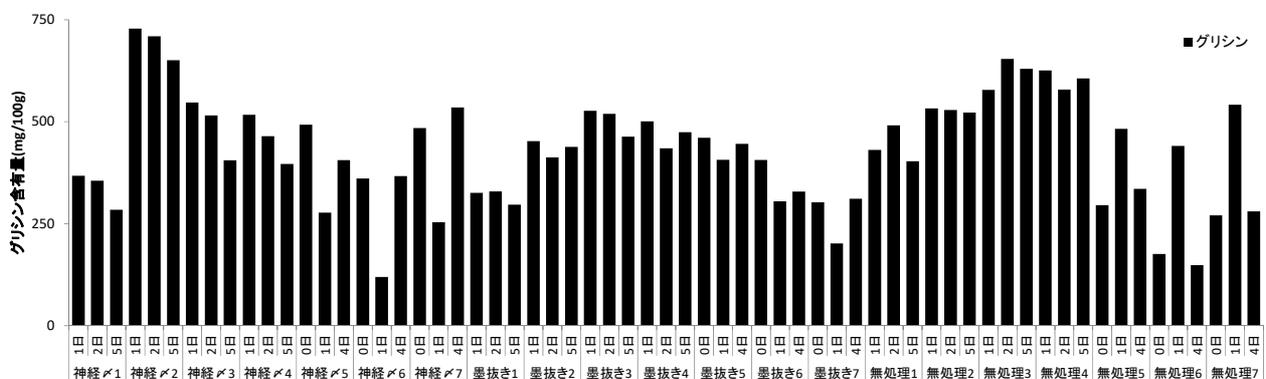


図1 ケンサキイカの処理別個体別グリシンの経過変化

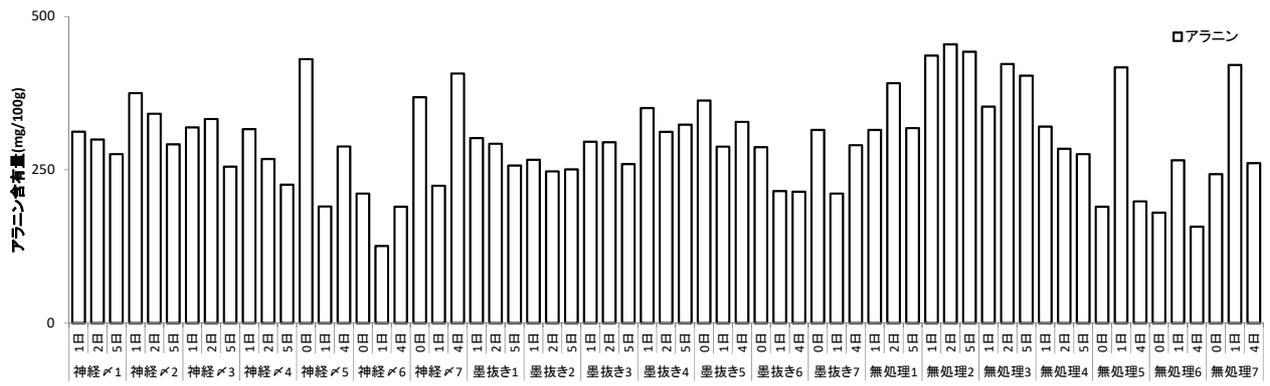


図2 ケンサキイカの処理別個体別アラニンの経過変化